

名 称	にいつる体験活動・ボランティア支援センター
所 在 地	〒969-6403 福島県大沼郡会津美里町鶴野辺字広町730番地
連 絡 先	TEL : 0242-78-3044 FAX : 0242-78-3094 URL : http://www.town.aizumisato.fukushima.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 会津美里町（旧新鶴村） 約3,800人

旧新鶴村は、明治31年、新田村と鶴野辺村が合併し誕生、村制施行から107年を経過した。福島県西部の広がる会津盆地の西部に位置し、美しい丘陵・山間地勢など豊かな自然に恵まれた中で、村は様々な地域文化を育んできた。基幹産業は長らく農業であるが、市場原理導入による農業の効率化など抜本的な振興を図るための取り組みが求められている。

平成17年10月1日、会津本郷町、会津高田町、新鶴村の三町村合併により「会津美里町」（人口約25,000人）となった。会津美里町は福島県の西部に位置し、東は会津若松市、西は柳津町、北は会津坂下町、南は下郷町・昭和村に接している。高田梅や薬用人参、加工ブドウなどの農業特産物、「会津」発祥の伝説起源に由来する伊佐須美神社、東北最古の焼き物の一つとして知られる会津本郷焼や野口英世博士ゆかりの中田観音など由緒ある神社仏閣などがあり、歴史と美しい自然環境に恵まれた町である。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 青少年グループ「ヤンボラにいつる」事業

「ヤンボラにいつる」は、「体験活動ボランティア支援センター事業」の一環として、平成15年11月、ボランティア活動を通して小中学生及び高校生に社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育成することを目的として組織された。

登録者数 81人（平成17年12月末日現在）

- | | |
|----------------|----------------|
| ○ 小学5年生・・・ 9人 | ○ 高校1年生・・・ 4人 |
| ○ 小学6年生・・・ 17人 | ○ 高校2年生・・・ 10人 |
| ○ 中学1年生・・・ 13人 | ○ 高校3年生・・・ 7人 |
| ○ 中学2年生・・・ 12人 | |
| ○ 中学3年生・・・ 9人 | |

「地域のために、自分のために！ できるときに、できることを！」というキャッチフレーズのもと、自主的なボランティア活動の展開を目指している。この「ヤンボラにいつる」の結成により、小中高生によるボランティア活動に取り組む機会を意図的・計画的に提供できるようにしている。実際の活動について、学社連携・融合の推進という観点から、学校や各種団体との連携を強め、地域に根ざした活動に取り組んでいる。

平成17年度の主な活動内容は、以下の表のとおりである。

実施月	活動内容	活動場所	連携団体
※ 5月	駅前清掃、花壇への花植え	J R 新鶴駅	商工会女性部
6月	救急救命法の講習	高齢者福祉センター	日赤奉仕団
6月	プランターへの花植え	新鶴公民館	日赤奉仕団
8月	ガラス磨き・床のワックスがけ	新鶴幼稚園	新鶴幼稚園
9月	村民運動会運営補助	ふれあいの森スポーツ公園	体育協会
9月	敬老会の運営補助	新鶴小学校体育館	住民福祉課
9月	手作りクッキープレゼント	高齢者福祉センター	社会福祉協議会
10月	新鶴温泉マラソン大会運営補助	ふれあいの森スポーツ公園	マラソン大会実行委員会
11月	スイセンの球根植え(700球)	新鶴公民館の周囲	日赤奉仕団・老人クラブ
※ 12月	一人暮らしのお年寄りへの年賀状送付	新鶴公民館	社会福祉協議会

※コーディネートの実際で説明

新鶴地域は、一つの地域に小・中学校がそれぞれ一校であり、幼・小・中学校はもちろん、社会福祉協議会や商工会、日本赤十字奉仕団などの各種地域団体との連携が図りやすいよい環境にある。この条件を生かしたコーディネートをすることにより、地域の活性化や教育力の向上を図る活発な活動となっている。

コーディネートの実際

「ヤンボラにいつる」の発足当時の主な活動は、公共施設等の清掃活動であった。子どもたちの主体性を大切にするために、その都度活動の反省やこれからの活動予定について話し合ってきたが、活動を重ねるうちに、会員の子どもたちからは、「もっといろいろな活動をしてみたい」という意見が出されるようになり、以下のような活動案が出された。

- 卒園した幼稚園のワックスがけをしたい。
- J R 新鶴駅を花でいっぱいになりたい。
- 一人暮らしのお年寄りへ年賀状を書きたい。
- お年寄りの方々にプレゼントをしたい。 など

一方、新鶴地域においては、社会福祉協議会、老人クラブ連合会、日本赤十字奉仕団新鶴支部、商工会女性部、文化協会などが独自にボランティア活動を展開している。しかし、活

動に参加する方々の高齢化が進んでいることもあり、活動内容も固定化してきている。また、これら各種団体の方からは、以前より「子どもたちと一緒にボランティア活動を行いたい」という要望が出されていた。

このような経過の中で、「ヤンボラにいつる」と各種団体との連携を図った活動が展開できるように、以下のような活動をコーディネートしてきた。

◇ 活動例1 「商工会女性部との花いっぱい活動」

商工会女性部では、毎年春に新鶴駅の清掃や花壇整備などのボランティア活動を行っている。しかし、予算の削減により花植え活動ができなくなるとともに、一人一人の作業負担も増えてくる傾向にあった。「ヤンボラにいつる」でも駅の清掃を行ってきたが、子どもたちは「駅の花壇にも花を植えたい」という思いを高めていた。

そこで、一緒に活動する場を設定することにより、両者の思いを実現することができると考え、合同での作業を要請した。「ヤンボラにいつる」の担当者および商工会事務局の方と、活動の日時や場所、作業分担等について話し合いを持ち、実現できることとなった。

実際の活動では、商工会の方々は、これまでの経験をもとに子どもたちに植え方を優しく教えながら作業を進めるとともに、大人数での作業のため短時間で行うことができた。また、「ヤンボラにいつる」の子どもたちも熱心に説明を聞き、商工会の方の植え方を手本にしながら上手に苗を植えることができた。さらに「ヤンボラにいつる」の活動には予算が確保されていたため、これまで以上にいろいろな花の苗を植えることができ、駅前をきれいに飾ることができた。

この活動をきっかけに、「ヤンボラにいつる」の子どもたちは、「もっといろいろな場所を花で飾りたい」という思いを抱いていき、6月には「プランターへの花植え活動」、11月には公民館周辺の「球根植え活動」へと発展していった。それらの活動でも商工会女性部の方々の協力を得ることができ、つながりを持ちながらボランティア活動を進めることができた。

この活動を通して、それぞれの団体のボランティア活動の現状をもとに、両者の思いを一緒に実現できるような活動に工夫していくことはとても大切なことであると実感した。

◇ 活動例2 一人暮らしのお年寄りに年賀状を書こう

新鶴地域には、お年寄りが多く、「ヤンボラにいつる」の子どもたちは「一人暮らしのお年寄りのために何かしてあげたい」という思いを膨らませていた。そこで、12月になり年賀状を送ろうという活動をするようになった。しかし、子どもたちだけでは一人暮らしのお年寄りの名前や住所を調べることは難しい。「ヤンボラにいつる」の担当者より、調べる方法がないかとの問い合わせがあった。

そこで、社会福祉協議会に連絡し、協力いただくことをお願いしたところ、活動の趣旨を理解してくださり、快く名簿を提供してくださった。子どもたちは、その名簿をもとに分担し、約60人の一人暮らしのお年寄りに年賀状を書くことができた。

一人暮らしのお年寄りにとって元旦に年賀状が届く、しかも地域の子どもが書いた年賀状であるということは、大きな喜びである。また、受け取ったお年寄りからは、子どもたちや支援センターに御礼の手紙や年賀状をいただいた。この交流を通して「ヤンボラにいつる」の会員の中に、さらにお年寄りを大切に思う心や温かい思いやりの気持ちを育てることができたと思われる。

この活動はこれからもぜひ継続していきたい活動であるが、残念なことに、個人情報保護という観点から、これからは名前や住所を本人の許可なく提供してもらえない状況にある。今後は、区長さんや民生委員さんなど新たな組織団体への協力を求め、直接届けてもらうなどの方法を工夫し、活動の継続を図っていきたいと考える。

人口3,800人余りの小さな地域である新鶴地域は、各種団体がたいへん身近な存在であり、連携が図りやすいという良い条件にある。だからこそ、団体間のつながりをコーディネートすることにより、活動の活性化を図り発展させていくことが大切であるということを感じた。これらの連携したボランティア活動を継続していくことが、異世代間の交流を深めたり、地域住民としての自覚を高め郷土を愛する心を育てたりすることにつながっていくものと思われる。そして、このようなコーディネートをしていくことが支援センターとしての大切な役割であると考えている。



駅前花壇への植栽



一人暮らしのお年寄りへの年賀状



駅の清掃・花植え活動を終えて

執筆者職・氏名：会津美里町教育委員会 生涯学習課新鶴公民館主事 山内 俊喜